



国際会長 (IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

“Let Your Light Shine”

「輝かそう、あなたの光を」

会長 古田 和彦  
副会長 秋元 美晴  
書記 古賀 健一郎  
会計 大高 治  
直前会長 古賀 健一郎

アジア太平洋地域会長 (AP) 利根川 恵子 (川越)

“Be the light for change”

「変革のための光となろう」

監事 松島 美一  
ブリテン 伊藤 誠彦  
担当主事 立花 明美

東日本区理事 (RD) 山田 公平 (宇都宮)

“Instil Confidence in our Youth”

「未来のために今、学びと気づきを！未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

湘南・沖縄部部長 (DG) 黒川 勝 (金沢八景)

「初心に帰り、新たな船出を踏み出そう」

副題：「ワイズメンズクラブはYMCAとともに」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「楽しんで、できる範囲で、YMCA と地域に仕えよう」

### <今月の聖句>

古賀健一郎

これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって  
平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。し  
かし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。  
ヨハネによる福音書 16 章 33 節

### 今月のひとこと

#### 「2024 年問題と日本語教育」



秋元 美晴

2024 年は 1 月 1 日の「令和 6 年能登半島地震」より始まりました。被害に遭われたみなさまに謹んでお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

2024 年問題とは、4 月 1 日からトラックドライバーの年間の時間外労働時間の上限が 960 時間までに規制されることによって生じる様々な問題の総称で、社会全体に悪影響を及ぼす可能性があると考えられています。少し考えただけでも、物流コストの上昇や商品への価格転嫁などが浮かびますが、この

問題は日本語教育には直接は関係ないように思われます。しかし、この 2024 年問題は日本語教育と大きく関係しています。例えば、政府は人手不足解消策として、外国人労働者を受け入れる在留資格の「特定技能」の対象に、新たに自動車運送業や鉄道、林業、木材産業の 4 分野を加えることを検討しています。5 年間の受け入れ見込み人数は、19 年の制度導入時には最大約 34 万人でしたが、4 分野の追加分野を加えた受け入れ見込み数は 50 万人を超える可能性もあると言われていました。

そうすると、外国人労働者の日本語教育が大きな問題になります。このためか、これまで文化庁にあった日本語教育関係の課は文科省に移り、4 月には文科省の中に外国人留学生や外国人労働者の日本語教育を強化する課が新設されることが明らかになりました。それに伴い、日本語学校で教える日本語教員の質の向上と増員を目指し、国が認定する日本語教育機関認定法が 4 月に施行され、日本語教師は国家資格となります。2024 年は日本語教育界の大変革の年になります。

これまで、継子扱いにされていた日本語教育が日の目を見ることになるのは、大変喜ばしいことですが、この変革の年に、日本語教育界がソフトランディングするためには、関係機関および関係者の大きな意識改革が必要になるのではないかと思います。

## <2024年1月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メン 8名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 3名 合計 11名	75% (メーキャップ 0名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

## <2月の行事予定>

TOF・HTW

日	曜	時間	行事内容	場所
12	月	10:00	YMCA 会員大会 兼横浜クラブ第一例会	湘南とつか YMCA・ オンライン
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

## <YMCA・ワイズ合同新年会

### 兼1月第一例会報告>

古田和彦

日時：1月13日（土）17：00～19：00

場所：中華街 廣東飯店

出席者：秋元、大高、古賀、齋藤、佐竹、田口、立花、古田  
(ゲスト) マーククロタカ、明美クロタカ、長島裕子

ワイズ湘南・沖縄部とYMCAとの合同新年会をコロナ前は毎年実施してきましたが、コロナ感染拡大のため開催できずに来ました。しかし、コロナも感染法上の扱いが変わり日常的な会合ができるようになったため、今年は4年ぶりに開催されました。参加者はYMCAからは総主事と担当主事計8名、湘南・沖縄部7クラブからの参加者45名、総勢53名でした。横浜クラブはこの会をクラブの第一例会と位置づけていますので、上記出席者は当クラブ関係者のみの記載としました。

定刻、部書記の古田ワイズ(横浜)の司会で開始。ワイズソングを高らかに歌い、ワイズの信条を唱和、開会祈禱を厚木クラブの川口知幸ワイズが捧げ、最長老の湘南とつかクラブ加藤利榮ワイズの乾杯で始まりました。全体で6テーブルでしたので、各テーブル9人、わがクラブはゲストの方々を含め11人なので、ひとテーブルには収まらず、2名は隣のテーブルとなりました。ビール・紹興酒をたしなみながら、中華料理に舌鼓を打ちつつ談笑し、久しぶりの食事会を楽しみました。一段落の後、佐竹横浜YMCA総主事(横浜)と黒川湘南・沖縄部長(金沢八景)から挨拶があり、それぞれ、久しぶりに対面での食事会を持てたことに感謝と喜びが語られました。続いて、日本YMCA同盟総主事である田口ワイズ(横浜クラブ)から、本年1月1日発生した能登地震へのYMCAへの対応について報告がありました。既に、YMCAからは数名のスタッフが現地入りし、指導的役割を果たして懸命に被災者支援に働いている旨報告されまし

た。この報告を受け、集まった我々で募金しようと発議があり、全員の賛同を得て募金した結果、総額7万円(たくさんの額を募金された方あり)となりました。黒川部長から、それに加えて、昨年10月に開催された部大会の参加費2万7千円も寄付したいと提案、これも皆さんの賛成するところとなり計9万7千円を能登地震被災者支援金としてYMCAに託しました。

最後は、久保次期部長(横浜つるみ)による三本締めにより19時喜びのうちに閉会となりました。



## 近況報告

えにし

### 横浜との縁 一雲の契り

大高 治



1987年初め、京都からの転居以来37年、生れ故郷より長く横浜に住んでいます。生まれ育った茨城県の内原は2005年に水戸市に合併されました。この地には終戦まで満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所があり、農村の青少年に満蒙開拓の意義と基礎を教え込む地として全国的に知られておりましたが、約8万6千人が渡満し、3割弱の犠牲者を出す悲劇を生んでいます。

水戸市は徳川御三家の一つ、江戸末期の講談本を起源とする「水戸黄門漫遊記」は昭和のTVドラマに引継がれ、水戸黄門の他、梅祭り、納豆、弘道館、水戸学と広く知られた都市の一つと思います。また水戸浪士を主力とした桜田門外の変も明治維新の一頁を占めています。

一方、横浜は鎖国を脱して最初に開港した地、日本最大の港として日本経済の発展を担って来ました。そして世界的に知られた都市でもあります。この横浜と水戸との間にどのような縁があるか思い巡らしてみました。ありました。直接間接に興味深い幾つか。地域社会内の人と人との繋がりと同様、地域社会間の絆も平和日本を築き上げている要因であろうと思います。

### 平和日本の絆

明治22年4月1日、我が国に初めて「市制」が公布されました。この日スタートした全国36の市の中で、関東からは横浜と水戸の2市のみでした。東京、京都、大阪も同時に市制が敷かれましたが、府に近い特別市となりました。当時の人口は東京が1位で139万人、横浜は6位の12万2千人、水戸は46位の2万6千人。人口の順に決められたものではありませんでした。それから130余年、全国の市は792を数え、こうした都市間では文化、産業、芸術、歴史などでのふれ合いを縁の糸とし

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

て結び合い、姉妹都市、親善都市、友好交流都市の盟約を結び、共にその生々発展を期しています。

## 北茨城市と中野市

その中にほほ笑ましい姉妹都市があります。茨城県の北茨城市と長野県の中野市の関係です。その結びつきは詩人野口雨情と作曲家中山晋平の友情が縁で、幾多の名曲が残されたことによっています。「船頭小唄、シャボン玉、黄金虫、赤い靴」など、赤い靴は沼津市出身の本居長世の作曲とのネット情報があります。横浜市の観光スポットを周遊するバスの名称「あかいくつ」は市民によって2005年に命名されました。赤い靴の銅像は2カ所もあります。何故こんなに「赤い靴」がポピュラーで大事にされているのか。数代前の西区の久保区長に聞いたことがあります。「横浜を全国的に有名にしたのはこの歌です」という。野口雨情は旧制の水戸中学卒では無かろうかと、野口雨情記念館に問い合わせたところ、野口家は裕福な旧家、明治15年生まれにして、水戸を飛び越えて東京の中学に進んでいたのです。

## 敦賀市と水戸市

一方、水戸市と福井県の敦賀市は、悲しい出来事によって結ばれました。1856年武田耕雲斎以下353人の水戸天狗党が幕府の手によって打ち首の刑に処せられました。敦賀の人々はこの極刑を哀れみ、その地に松原神社を建立してその霊を祀り、長く哀悼追慕の誠を捧げております。昭和39年10月松原神社百年祭が盛大に行われた時、水戸市から木村伝兵衛市長をはじめ遺族が参向参拝され、その際の敦賀市長との懇談から姉妹都市の話題が生まれ、翌40年4月10日水戸の地で姉妹都市の認証式が行われました。

## 水戸市と彦根市

それから3年後の昭和43年は明治百年。全国津々浦々で記念行事が行われました。その夏、敦賀市長から水戸市長に「遠い桜田門外の変以来の彦根市と水戸市の鬱々としたものを、明治百年という絶好の機会に霧散させてはどうか。敦賀市が仲介の労をとっても宜しいが」との申し出がありました。同市長はこれを快諾。井伊大老の直曾孫に当たる彦根市長も快く受け入れ、大老の誕生日に当たる昭和43年10月29日、彦根城近くの大老の銅像の前で仲直りの儀式を行い、親善友好の契りが結ばれました。

桜田門外の変では、水戸浪士17人中生き延びたのは2人、大老の登城に付き添った彦根藩士等60名中8名がその場で落命、その他多くの藩士らも殿を守れなかったことで、罪に問われています。更に彦根藩は幕府によって30万石から20万石へ減封されました。明治の夜明けを前に、「両藩が祖国日本を憂いて取った道は同じであった。この苦勞無くして明治は無かった。」「今後は文化、経済のあらゆる機会をとらえ、親善の交流をはかり相互の発展をはかろう」と誓ったのです。

## 彦根市と横浜市

横浜市西区の掃部山は、横浜の開港に貢献した井伊掃部頭直弼にちなんで付けられた地名です。港を見下ろす丘に堂々たる銅像が立っています。旧彦根藩士らが買い取った井伊家の所有地を横浜市に寄付したことから、彦根市と規模が同等の横浜市西区が友好交流の契りを結ぶことになりました。掃部山での「虫の音を聞く会」には毎年彦根市から代表者が訪れ、赤備え

の鉄砲隊も時に華を添えます。西区の第一地区のシニアクラブの会長等には、市民から俳句や和歌を集める役があり、私もその役に加わっています。

## 彦根と水戸の雲

彦根城の博物館内には直弼の曾孫、直愛(なおよし)の筆による「萬里無片雲」が掲げられていました。直弼の政道には、「一片の雲も無い、見渡す限り晴れ渡った青空」であったと言っているものと思います。一方藩の子弟の教育の場、水戸の弘道館には、15代将軍、徳川慶喜の筆による「雲高气静」が展示されています。国を思う志の雲は高く、行動は心を静めてと言っていると思います。

## 「友達の友達は皆友達だ」

この言葉を引用すれば、水戸と横浜も友達です。「晴れ渡った青空と天空高くに浮かぶ雲」160余年後の今、振り返れば他に方策はなかったかとも思いますが、当時の真剣な想いは、尊い犠牲を伴いながら、平和日本の基となったように思います。裏金や使途不明金の責任を事務長や秘書にのみに課す立法に恥じ、能登・北陸の大災害の半分は建設国債を投じて来なかった国土強靱化の遅れではなかろうか。一定の国債の投入は痛手を伴わず、日本の経済全体をも強くする道になるはずで

## 今月の強調TOFのアピール

### TOF(断食のとき)

TOF(Time of Fast タイム・オブ・ファスト)は「断食のとき」のことで、ワイズの国際事業の中心的活動の一つで、1972年に始まりました。クラブ例会などでの食事を抜いたり、質素なものにしたりして、その分の費用を国際協会に献金するものです。献金は国際協会が世界中のYMCA、ワイズメンズクラブから募集して選定する発展途上国を主な対象とする地域支援プロジェクトに用いられています。

2023/24年度の新たなTOFプロジェクトは第53回国際議会(2023年7月、ケニア共和国ナイロビ)で選定されました。カメルーン、ナイジェリア(2件)、ネパール、ミャンマー、インド(3件)、ペルー、コロンビアでの計10件で、総額94,050スイスフラン(約1,600万円)の給付が承認されています。

[<https://www.ysmen.org/our-work/international-support/time-of-fast/>](https://www.ysmen.org/our-work/international-support/time-of-fast/)

<https://www.ysmen.org/our-work/international-support/time-of-fast/>

東日本区のTOF献金目標は、会員一人当たり1,300円以上です。各クラブから各部への送金期限は2月15日です。

私たちは世界のどこかで誰かと繋がっています。積極的に献金に参加いたしましょう。

## 1月第二例会報告

古賀健一郎

日時:1月18日(月)17:00~18:20 Zoom開催

出席者:秋元、大高、古賀、立花、古田

《今後の行事予定》

確認した。

《協議・報告事項》

(1)2月例会

★2月例会は「横浜YMCAピースフォーラム」を第一例会とする。

【横浜YMCAピースフォーラム】2月12日(月・休)10:00-12:30

・湘南とつかYMCAの会場とオンラインのハイブリッドにて開催。

・講演会は、桃井和馬氏(フォト・ジャーナリスト)を招き、『戦争・平和・未来』の作り方~ウクライナ戦争から、パレスチナ・イスラエル戦争、そして地球環境を考える~』をテーマとして開催。

★各人で申し込み願う。(横浜クラブ例会に参加した)ゲストにも案内する。

・現時点では、秋元、大高、古田、古賀、佐竹が参加予定。

(2)3月例会 卓話者 大江浩(賛育会、元YMCA職員、元横浜クラブ)

【卓話内容「賛育会、赤ちゃんの命を守るプロジェクト」

★賛育会は、東京大学YMCAの融資により、母子の保護・保険・医療を目的として創立。貧困や虐待などによる、困窮する人たちの医療を実践。賛育会病院の機能を使って、賛育会をあげて赤ちゃんのいのちを守るプロジェクトを開始した新しい取り組み。

★新しい取り組みの発表なので、ゲスト・ビジターに広く案内する。

★ハイブリッド方式で開催—Zoom視聴者への配慮もつたオンライン環境の改善を検討する。

(3)4月例会

・例会卓話者を検討中。次回2月の役員会で決定したい。

(4)富士山一泊旅行(富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ宿泊)

・横浜つづきクラブの恒例行事の富士山一泊旅行(5月17~18日)に、横浜クラブも合流することを決定。

(5)ブリテン2月号編集計画

(6)クラブ会則の変更について(クラブ会費)

・マーククロタカ 明美クロタカさんご夫妻の入会の可能性を考慮し、新たに設けるパートナー会員(仮称)の会費について検討し、パートナー会員(仮称)の会費を一人あたり3,000円(通常会員4,000円)とすることに決した。

・「ふたりで入会」の表現については、社会の多様性を尊重する観点から、正式名称を後日改めて検討する。そして、クラブ会則はこの新しい制度を反映する形で変更を行う。

(7)次年度役員:今年度の役割を継続することに決定した。

(8)その他

・パレスチナ難民支援募金に1万円クラブから送った。

・大阪長野クラブ(DBC)に、新年のご挨拶としてクッキーをお送りした。



担当主事 立花 明美

1月6日に横浜新年礼拝を湘南とつかYMCAホールで行われました。現地とオンラインのハイブリット方式で行い、ステップII研修に参加した2名の職員より、研修報告が併せて行われました。また1月25、26日2日間で、全国YMCA日本語教育担当者会が横浜中央YMCAで行われました。2024年度より日本語教育機関の申請内容や主要国の募集について、協議・報告されました。

1月4日よりアフタースクールと専門学校作業療法科の授業が始まり、その他は1月9日より開始されました。

・1月6日(土) 横浜YMCA新年礼拝

・1月13日(土) ワイズメンズクラブ新年会 @ローズホテル横浜

・1月15日(月) 日本語学科チューター交流会

・1月20日(土) 2024年度中央YMCA学童説明会

・1月22日(月) アフタースクール リーダートレーニング

・1月22日(月) のんびりんこ 防災給水施設確認会

・1月25日(木) ~26日(金) 全国YMCA日本語教育担当者会@横浜中央YMCA

・1月27日(土) ~28日(日) 全国YMCAアフタースクール担当者会

・1月27日(土) 2024年度国際情報ビジネス科入学試験⑦

・1月30日(火) 神奈川県専修学校各種学校協会スピーチコンテスト@関内ホール

### 2月例会プログラム

日時:2月12日(月・休) 10:00~12:30

場所:湘南とつかYMCA・オンライン

YMCA会員大会を第一例会とする

例会報告:秋元ワイズ

### 3月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
12	月	10:30	横浜YMCA会員大会 兼 横浜クラブ第一例会	湘南とつかYMCA
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA立花明美にご連絡下さい。

メール [tachibana\\_akemi@yokohamaymca.org](mailto:tachibana_akemi@yokohamaymca.org)

電話 045-661-0080

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★